

薬の伝言板



～慢性閉塞性肺疾患(COPD)～

No. 278 2021年1月

丸子中央病院 薬局

がん、循環器疾患、糖尿病、**慢性閉塞性肺疾患(COPD)**などの生活習慣病は、個人の意識と行動、個人を取り巻く社会環境、地域や職場などの環境要因、経済的要因といった幅広い視点から、健康リスクを社会として低減していくことがとても重要となっています。今回は生活習慣病の1つであるCOPDについてお話しします。

○どんな病気？

慢性閉塞性肺疾患（COPD：chronic obstructive pulmonary disease）とは、今まで慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称で、**呼吸機能が低下していく肺の病気**です。タバコなどに含まれる有害化学物質を長年吸い込むことで、気管支に慢性的な炎症が生じ、肺胞が少しずつ破壊されていき、その結果、肺の機能が気づかないうちにむしばまれて、体が酸素欠乏になります。



○原因

COPDは有害物質の吸入や大気汚染によって起こります。中でも原因のトップにあげられるのは**タバコ**の煙です。タバコの煙を吸入することで肺の中の気管支に炎症がおきて、咳や痰が出たり、気管支が細くなることによって空気の流れが低下したりします。有害物質が肺胞にまで及んで炎症を起こすと、肺胞の壁が破壊され、古くなったゴム風船のように弾力がなくなり（肺気腫）、空気をうまく吐き出せなくなります。COPDではこれらの変化が併存していると考えられており、治療によっても元に戻ることはありません。



○症状

初期の症状は**咳・痰**などです。次第に歩行時や階段昇降など身体を動かした時に息切れを感じる**労作時呼吸困難**がみられるようになります。一部の方では、**喘鳴**や**発作性呼吸困難**など喘息の様な症状を合併する場合があります。



○治療

前にも書きましたが、一度破壊され、変化を起こした肺を元に戻すことはできません。しかし、早く病気を発見して治療を続ければ、症状を和らげたり、病気の進行を抑制することが可能です。

喫煙を続けると呼吸機能の悪化が加速してしまいますので、**禁煙が治療の基本**となります。症状に応じて、薬物療法や運動療法などの総合的な治療（呼吸リハビリテーション）を継続的に実践します。増悪をさけるためには、「インフルエンザワクチン」や「肺炎球菌ワクチン」の接種が勧められます。



COPD の薬物療法の中心は気管支拡張薬です。効果や副作用の面から「吸入薬」が推奨されており、主として気管支を拡張する**抗コリン薬**や**β2 刺激薬**、炎症を抑える**ステロイド薬**があり、これらが2～3種類配合されている製剤があります。



そのほか必要に応じて、痰をとる去痰薬、咳を止める鎮咳薬、感染症を防ぐ抗生物質などを使います。

分類	作用機序	主な副作用
抗コリン薬（吸入薬）	気道の閉塞を起こす要因となるアセチルコリンのはたらきを抑制する	前立腺肥大や緑内障の人は悪化することもある
β2 刺激薬（内服薬・吸入薬・貼付薬）	気道まわりの筋肉（気道平滑筋）にある特定部位（β2 受容体）を刺激して気管支を拡張し、呼吸しやすくする	動悸・高血圧・足がつる・筋肉痛、手指のふるえ など
ステロイド薬（内服薬・吸入薬）	炎症を抑える	吸入薬：喉の刺激による咳・声がれ・口腔カンジダ 内服薬：感染症や糖尿病の誘発・増悪

○管理目標

- (1) 症状および生活の質を改善する
- (2) 運動能と身体活動性を向上させる、または維持する
- (3) 増悪を予防する
- (4) 疾患の進行を抑制する
- (5) 全身併存症および肺合併症を予防する、治療する
- (6) 生命予後を改善する



COPD は慢性の病気ですので治療は長期間に及びます。患者さん自身が病気と向き合って、自分の病気とうまく付き合う能力を身につけ、生涯、治療を続けていくことが必要になります。